

我(和)がまちづくり (いしかわ地域の魅力創造まちづくり事業)

集落愛をもった人づくりで、人の和

1. 事業概要

地域の活性化をめざすには、人づくりが大切であるとの認識で、心の豊かさを育み、思いやりの心、人とのふれあう機会、意思疎通を図る人の和をさらに醸成するために、これまでの鯉のぼりや花いっぱい運動等のまちづくり事業のステップアップと、地域の魅力を引出す新たな取組みとして、歴史や文化を学ぶ「祭りと歴史の交流」を展開することで、交流人口の拡大を図った。

「田んぼの上の鯉のぼり」・・・町会内に15年ぶりで子どもが誕生したことを契機に、各家に眠る鯉のぼりを神社前の田んぼの上に遊泳させた。

「季節のミニ飾り」・・・町会内の賑わい創出を図るため、鯉のぼり、七夕、風車、ミニ杵旗を飾った。

「花いっぱい」・・・季節の花で町会内を飾り、通行者に癒しを提供した。

「祭りと歴史のふれあい」・・・お熊甲まつりの体験と地域の歴史と住民とふれあう機会を創出した。

2. 事業の目的

町民全員が何らかの活動に参加できる全員参加型事業を目的とし、集落への愛着が高まる機会を創設する。



3. 事業内容

(1) 鯉のぼりの設置

田岸菅原神社前の田んぼの上に、鯉のぼりを40匹遊泳させた。



(2) 季節のミニ飾り

鯉のぼり、七夕、風車、ミニ杵旗を、季節に併せ各家先のプランターに設置した。

オリジナルとして、短冊やミニ杵旗に屋号を入れている。



(3) 花いっぱい

各家先のプランターと田岸集会所の花壇に、サルビア、チューリップ等を植えた。

サルビアは、草花の管理に詳しい方が自家採取し自家育苗したものである。

水田の法面に畦文字として、地名の「たぎし」を描いている。



(4) 祭りと歴史のふれあい

国指定重要無形民俗文化財「お熊甲祭り」の体験と地域の歴史、そして住民

との交流を創出した。

祭りムードを高めるためにタオルとうちわを製作した。



4. 成果

田岸町会内のほぼ全員が何らかの行事や催し物に参加してもらえる機会を創出できたことで、共同の目的意識を持ち、情報の共有化を図ることができた。

次につながる行動としては、平成27年も学生に来てもらい、祭りの体験だけでなく、他の行事にも参加してもらおうとの意見が出ている。

若いエネルギーは、高齢者、町会の活性化に大きく貢献したと感じる。

人の和は確実に強固となり、拡大の兆しが見えている。小さな集落の熱い心は更にひとつになっている。

5. 今後

(1) 継続は力なり

バカ者、若者、よそ者とよく言われるが、地域に不足する若者とよそ者の智恵とエネルギーを借りて、学生には祭りの体験だけでなく、他の行事（虫送り、田休み慰安会）にも参加してもらおう計画である。

良き伝統を伝承すべく、良いところを伸ばしながら、時代にマッチした取組とし継続していきたい。

(2) 交流を活かした経済活動への発展

地域資源を活かした商品開発ができないか。歴史をひもといたキーワードで、高齢者の生き甲斐創出を図りたい。

6. まとめ

我が町会では、ひとつの取組（事業）ではなく、複数の取組を行い、住民全員が何らかの取組に参画出来るような仕組みとした。

田んぼの上の鯉のぼりは壮年団。季節のミニ飾りでは女性会。花いっぱい女性会や町会と農業団体。祭りと歴史は壮年団をはじめ住民全員。

そして、間をとりもつ田岸町会の役員会等、メインとなる団体が実務を担い、他の団体や住民が補完する体制で、行事、事業を実施している。

住民全員参加型の「人の和」をテーマにまちづくりの取組みで、団結力は更に高まったと自負できる。

